

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【本校が育てたい生徒像】

- 1 「ものづくり」を通して学ぶことを楽しむ生徒
- 2 自己肯定感を高く持てる生徒
- 3 協働して目標を達成できる生徒
- 4 自立して自ら未来を切り拓いていくことのできる生徒
- 5 より良い社会を創っていきたいと考える生徒

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) ICTを活用するなどして、生徒一人ひとりの能力に寄り添った「わかる授業」を行うことにより基礎学力の向上を図る。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」を通じて、「生徒の興味関心を高める授業」を研究・実践する。
- (3) 専門分野の技術・技能の向上を図る。また、社会の要請に応える新たな「ものづくり教育」に挑戦していく。

○令和5年度学校経営推進費「東淀ロボット人材創出計画ーロボット SIer の育成」

令和7年度成果の検証方法と評価指標

- ①国家資格技能検定シーケンス制御作業受験者数（20名以上）
- ②ロボットS I検定受験者（20名以上）
- ③「高校生ロボットインテグレーション競技会」入賞
- ④「ロボットアイデア甲子園！」全国大会出場
- ⑤新工業系高等学校ロボティクス系列の実習カリキュラムのシラバス完成

*学校教育自己診断(生徒向け)【以下「生徒アンケート」と表記】の「授業の分かりやすさ・教え方の工夫」について、R6年度には肯定的回答90%以上とする。

(R2 82.3% R3 86.9% R4 86.6%)

*各教科における授業アンケートの結果において「授業について興味・関心が高まった」についての肯定的回答をR6年度には85%以上とする。

(R2 80.7% R3 83.3% R4 81.0%)

2 安全・安心な学校づくり

- (1) 学校が生徒の「居場所」となり、生徒が安心して学ぶことができる環境づくりを行う。
- (2) 生徒情報の組織的な集約・共有化を図り、生徒一人ひとりを細やかに指導する体制を構築する。
- (3) 人権教育・安全教育を一層充実させ、生徒が人権を尊重し、互いを大切にす精神と態度を培う。
- (4) 生徒の健康管理・安全衛生の意識を高め、健康的な生活習慣を培う。

*R6年度には中途退学者を在籍者数の2%以内にする。(R2 7.9% R3 2.8% R4 2.4%)

*R6年度には部活動の生徒の加入率を50%とする。(R2 33.7% R3 40.6% R4 44.0%)

3 自ら未来を切り拓く生徒の育成

- (1) 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、集団の中で好ましい人間関係の形成に努める。
- (2) 資格取得の指導を通じて、生徒にチャレンジ精神や達成感を醸成し、進路実現への意欲を高める。
- (3) 特別活動や生徒会活動など、協働してものごとに取り組む教育活動の促進。
- (4) 3年間の計画的・組織的なキャリア教育を通じて、生徒一人ひとりの自己実現を支援する。

*R6年度には資格取得受験者延べ500名以上をめざす。(R2 延べ476名 R3 延べ536名 R4 延べ448名)

*就職希望生徒の100%合格を継続する。(R2 100% R3 100% R4 100%)

4 地域に信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 地域(保育所・地元企業・地域区役所等)との連携を深め、生徒が社会と直接つながる「社会に開かれた教育課程」を実現する。
- (2) 中学校との連携を深め、情報交換を密にするとともに、工業高校の学びの魅力を積極的に発信する。
- (3) 本校の特色ある教育内容を広く府民に情報発信し、学校PRに努める。
- (4) ICTを活用するなどして校務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間や、学校の更なる魅力化に力を発揮できる環境をつくる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
アンケート回収率 生徒 98.4% 保護者 18.1% 教員 100% ○生徒 昨年度に比べて、肯定率が4ポイント以上の増減があった項目 「学校に行くのが楽しい」76.6%→81.1% (+4.5%) 「授業は、わかりやすく楽しい」83.9%→79.7% (-4.2%) 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」65.9%→77.4% (+11.5%) 「先生は授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している」91.9%→95.4% (+4.3%) 「学校は生徒1人1台端末(クロームブック)を効果的に活用している」85.6%→93.8% (+8.2%) 「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」83.7%→89.5% (+5.8%)	第1回 令和5年5月31日(水) ・昨年度よりも計画内容について進捗が感じられ、学校が取り組む教育内容を評価している。 ・将来を見据えたデジタル教育を推進している本校の取り組みについて高く評価している。 ・昨年度に引き続き、地域との連携を深める活動や取り組みの推進に期待している。 ・今年度の学校の取組みである「令和5年度かかわりづくりワークショップ振り返りシート集計結果について」「学校パンフレットについて」「知的障がい生徒自立支援コースの紹介につい

府立東淀工業高等学校

「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」82.3%→87.0% (+4.8%)
「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」83.1%→87.3% (+4.3%)
「授業などで、将来の進路や生き方について考える機会がある」85.6%→89.8% (+4.2%)

- ・18項目のうち、8項目で肯定的回答が大きく上昇した。
- ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」が11.5%上昇しており、その理由として新学習指導要領の実施、PBLの導入やICT機器の効果的な活用のための教材開発等が考えられる。
- ・「学校は生徒1人1台端末(クロームブック)を効果的に活用している」が8.2%上昇しており、その理由としてリーディングGIGAハイスクールとして、ICT機器やアプリを積極的に活用したことが考えられる。
- ・「授業は、わかりやすく楽しい」は肯定的回答全体としては4.2%減少しているが、「ややあてはまる」が56.5%→41.1%となっている一方「よくあてはまる」が27.4%→38.5%と大きく増加している。このことから、強くそう感じている生徒が増える一方、全体としては減少している原因を、今後更に詳しく検証して取組みに反映させていきたい。
- ・「教え方に工夫をしている先生が多い」は肯定的回答全体としては2%減少しているが、「ややあてはまる」が50.4%→38.3%となっている一方「よくあてはまる」が39.7%→49.8%と大きく増加している。このことから、強くそう感じている生徒が増える一方、全体としては減少している原因を、今後更に詳しく検証して取組みに反映させていきたい。

○保護者
肯定的回答が90%以上であった項目
「この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」
「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」
「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」
「先生は、子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる」
「学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」
「先生は、子どもの評価を適切・公平に行っている」
「学校の生徒指導の方針に、共感できる」
「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」
「文化祭や体育祭・宿泊行事などの学校行事は、積極的に参加できるよう工夫されている」

- ・13項目のうち、9項目で肯定的回答が90%以上あった。
- ・「この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」が93.2%については、「溶接甲子園」で4位入賞、「第1種電気工事士試験」への取組など、従来から力をいれてきた各種コンクールや資格試験への取組みに加えて、デジタルを活用した学びへシフトするなど、生徒の実情を踏まえた教育内容が評価されたことが考えられる。
- ・「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」が97.6%と高い数値になっていることについては、進路指導課と各学年が連携を図りながら、保護者への進路説明会や生徒の工場見学・大学等の見学を積極的に行っていることなどが評価されたのではないかと考える。

○教員
肯定的回答が85%以上であった項目
「この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある」
「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」
「いじめ(疑いを含む)が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」
「この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている」
「生徒一人ひとりが、興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている」
「校長は、自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」
「学校予算は、一定のルールに基づき、適切に編成・執行されている」
「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」
「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」
「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」

- ・29項目のうち、10項目で肯定的回答が85%以上あった。
- ・「この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある」が88.0%については、放課後や長期休業中に目的意識のある生徒を中心にコンクールや資格試験指導を行っていることが考えられる。
- ・「各教科において、教材の精選・工夫を行っている」が94.0%については、電子黒板や1人1台端末をより効果的に活用するためと考えられる。
- ・「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」が94.0%については、異なる教科においてもICT機器の活用方法を参考にするためと教員ひとり一人が授業力向上に意識が高まっていると考えられる。
- ・一方で「学校として、部活動の活性化について工夫している」28.0%、「教育活動において、奉仕等の体験学習やボランティア活動が活発に行われている」46.0%、「この学校では、清掃がいきとどいている」56.0%など相対的に低い自己評価となっている項目については、今後の改善課題として取り組む必要がある。
- ・図書館だよりの発行について、これまで分掌制で運用していたが、今年度から委員会制として運用を始めることになった。そのような中で、学校行事や図書館運営を中心に委員会で役割分担を行ったが、「図書館だよりの発行までに至らなかった。今後は、委員会内での役割分担を明確に行い発行できるよう工夫する。
- ・遅刻指導として遅刻常習の生徒に対して対話を取り入れ指導に取り組んできたが、目標の「遅刻者数1000件以下」を達成できなかった。この原因としては、特定の生徒が寝坊を理由として遅刻数を増加させている。生徒課と学級担任が連携し、学級担任が保護者と連携を密にして減少を図る。また、遅刻防止週間を年間に5回を行っているが、遅刻数が多い月に遅刻防止週間を新たに設定するなど対策を行う。
- ・各種国家資格や検定試験チャレンジの支援について、教育内容の見直しや求められる資質等を検討する中で、検定試験の全員受験や教育内容に対応した試験の精査などを行ったことが原因と考えられる。今後は、教育内容と各種資格試験等の繋がりを工夫し、生徒のキャリアの幅を広げ、挑戦できる環境を整備する。

て」「令和5年度学級担任及び在籍者数について」「進路実績について」「学校経営推進費について」「今年度の学校行事日程について」の説明を行い、理解を得た。

第2回 令和5年11月1日(水)

- ・令和5年度学校経営計画及び学校評価(進捗状況)について説明後に協議され全員賛成で議決された。
- 外部業者の求人票管理システム導入により、ICT機器を活用して生徒保護者共に効果的な情報収集などを行える。システムを高く評価している。
- 広報活動について、中学校への出前授業件数の増加、学校ホームページの更新、SNSの開設など、本校のものづくり教育や本校の特色を中学校にアピールしている活動を高く評価している。
- ICT機器を活用した教育活動(授業、実習、行事など)や校務の効率化について高く評価している。
- ・配付した資料1～6について説明を行った
- 資料2(教員)清掃活動の項目が他の項目より低い点が気になる。今後の清掃活動の取組や工夫、改善に期待している。
- 資料2(保護者)部活動について、他の評価より大幅に低いので部活動活性化の取組に期待している。
- 資料2不登校いじめについて、問題が多様化され学校の迅速な対応が求められている。
- 資料6について、時代の変化とともに内容の更新(5年～10年毎)が必要である。

第3回 令和6年2月1日(木)

- ・令和5年度学校経営計画及び学校評価について説明後に協議され、全員賛成で議決された。
- 部活動の加入率などの指標を評価するのは難しくなっている。校内活動だけではなく、外部団体やクラブ、地域の活動に取り組んでいることも評価するべきである。
- 教育活動(授業、実習、課外活動など)において、最先端技術(ロボット、ドローンなど)や知識を取り入れた体験(実習など)型の活動を推進し取り組んでいることを高く評価している。
- 今年度より導入したデジタル求人票管理システムを活用して、2年生にも情報共有を行い進路指導に活用している取り組みを高く評価している。
- かかわりづくりワークショップ(3年目)の取組への質問
- 今までの工業教育ではない新しい工業教育・活動を追及し取り組んでいる本校の姿勢を高く評価している。
- 本校の教育活動について、肯定的な意見が多く、また高く評価されている。
- ・令和6年度学校経営計画及び学校評価(案)について、特に質問や意見などはなかった。
- ・その他
○特になし
- ・配布した資料1～3について説明を行った。
- 資料3について、NPO法人「CLACK」が大阪マラソンチャリティー30団体に選出されたことを紹介した。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「わかる授業」の実践</p> <p>(2)「生徒の興味関心を高める授業」の実践</p> <p>(3) 専門分野の技術・技能の向上。新たな「ものづくり」教育への挑戦</p>	<p>(1)</p> <p>①学習支援クラウドサービスの活用を更に進め、効率的で「わかりやすい授業」を実践する。 ・互見授業週間を設定して、教員間で授業研究を行う。</p> <p>②学習支援クラウドサービスの活用により観点別評価を効率的に行うシステムを構築する。</p> <p>③1・2年生対象に5教科(国社数理英)対応のAI型学習ドリルを活用して、個別最適な学びを進める。</p> <p>④リーディングGIGAハイスクール(アドバンスクラス)指定を受けて、ICTの有効活用による学習指導の研究を進める。</p> <p>(2)「キャリアガイダンス」「基礎講座」(以上1年次)「総合的な探究の時間」(2年次)を軸に、教科横断型・探究型の授業を展開する。PBL(課題解決学習)の手法を活用して、「ものづくり」を自らの将来や社会と繋げるなどしながら、深く考える力を養う。</p> <p>(3) Society5.0と言われる今後の産業会で必要とされるデジタル技術等を積極的に取り入れ、実習内容の見直しや新たな実習の検討を行う。 ・R4に導入した五軸マシニングセンタを活用した新しい「ものづくり」を発展させる。 ・ドローンに関する操縦技術の習得・プログラミングなどに取り組む。 ・上記以外にもデジタル技術を活用した「新しいものづくり」の教育内容を積極的に取り入れ、新工業系高等学校(本校の校地にR9以降開校予定)のカリキュラムに継承できる教育内容につなげる。 ・令和5年度学校経営推進費「東淀ロボット人材創出計画ーロボットSIerの育成」</p>	<p>(1)</p> <p>①「授業は分かりやすく楽しい」85%以上[83.9%] ・公開授業週間年間2回実施 ・「先生はICT機器を効果的に活用している」90%以上を維持[91.1%] ・「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」87%以上[85.6%]</p> <p>②ループリック機能などを用いた観点別評価のシステム構築と、それを活用する教員70%以上。[新規]</p> <p>③1年生の「基礎講座」、1・2年生の英国数を中心に授業でAI学習ドリルを活用する教員を全体の78%以上[76.5%]</p> <p>④・授業でプロジェクトを活用する教員90%以上。[88.2%] ・「先生は授業で教え方を工夫している」90%以上を維持[90.1%]</p> <p>(2)</p> <p>・「授業内容に興味関心を持つことができた」83%以上[81%] 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」68%以上[65.8] ・PBLにおける各学年(今年度は1・2年生)の生徒発表会をそれぞれ年1回以上。 ・「自分のキャリアや進路について考え、意識できた」60%以上[新規]</p> <p>(3)</p> <p>・授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」84%[82%] ・3年間を見通した系統的なデジタル技術教育のカリキュラムの作成と、新しい実習内容の導入。</p> <p>①国家資格技能検定シーケンス制御作業受験者数(10名以上) ②「高校生ロボットインテグレーション競技会」基礎課題完成 ③「ロボットアイデア甲子園！」書面審査通過</p>	<p>(1)</p> <p>①「授業は分かりやすく楽しい」[79.6%](△) ・公開授業週間年間2回実施(○) ・「先生はICT機器を効果的に活用している」[95.4%](◎) ・「学校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」[93.7%](◎)</p> <p>②ループリック利用者[27.5%](△)</p> <p>③1年生の「基礎講座」、1・2年生の英国数を中心に授業でAI学習ドリルを活用する教員は全体の78%以上である。[85.7%](◎)</p> <p>④・授業でプロジェクトを活用する教員90%以上。[95.4%](◎) ・「先生は授業で教え方を工夫している」90%以上を維持[88.1%](△)</p> <p>(2)</p> <p>・「授業内容に興味関心を持つことができた」[83%](○) 「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」[77.4%](◎) ・PBLにおける各学年(1年生:1回・2年生:3回)で生徒発表会をそれぞれ年1回以上実施した。(○) ・「自分のキャリアや進路について考え、意識できた」[72.1%](◎)</p> <p>(3)</p> <p>・授業アンケート「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じている」[83.9%](○) ・五軸マシニングセンタ導入に伴い、技能検定マシニングセンタ作業の取組を開始した。(○) ・ドローンに関する操縦技術の習得・プログラミングなどに取り組んだ。(○)</p> <p>①技能検定シーケンス制御作業受験者数[11名](○) ②「高校生ロボットインテグレーション競技会」応用課題完成(○) ③「ロボットアイデア甲子園！」大阪大会敢闘賞(○)</p>

府立東淀工業高等学校

<p>2 安心・安全な学校づくり</p>	<p>(1) 生徒が安心・安全で学ぶことができる「居場所づくり」</p> <p>(2) 個に応じた細やかな指導体制の構築</p> <p>(3) 人権教育・安全教育の充実</p> <p>(4) 健康管理・安全衛生の意識向上</p>	<p>(1)</p> <p>①大学（立命館大）と連携する「かかわりづくりワークショップ」、NPO やフードバンクと連携する「放課後カフェ」、部活動などを通じて、生徒一人ひとりが自分の「居場所」と言える場所を見つけることができる環境づくりの充実を図る。</p> <p>②図書館を学力向上や基礎的教養を深める場所であるとともに生徒にとって身近でかつ活用しやすい場所となるよう工夫する。</p> <p>(2)</p> <p>①全生徒対象に、総合分析シート（中学校・保護者からの情報、成績、学校生活アンケート・教員分析などの一覧表）を作成し、教員で情報の共有化を行う。またスクールソーシャルワーカー（SSW）、スクールカウンセラー（SC）などと連携しながら、必要に応じて「個別の指導計画」等を作成するなど、一人ひとりのニーズに対応した指導を充実させる。</p> <p>②自立支援コースの生徒に対しては、上記の内容に加えて、合理的配慮の観点から授業のユニバーサルデザイン化を図り、進路希望に合わせた実習計画・教育支援を行うなど支援体制の整備に取り組む。</p> <p>(3)</p> <p>・人権講演会等の充実・活性化に努める。LGBT やSDGs など多様な人権テーマに取り組む。 ・交通安全・SNS・薬物に関する講習などを実施し、各々の知識の提供と生徒の意識の向上を図る。</p> <p>(4)</p> <p>①生徒保健委員会による感染症への感染予防等の啓発活動（昼休みの放送等）</p> <p>②健康診断後の医療機関への未受診者に対する指導を徹底する。</p> <p>③生徒が自身の健康等について安心して相談できる体制の充実。</p>	<p>(1)</p> <p>①「学校に行くのが楽しい」78%以上 [76.6%] 「自分の学級は楽しい」86%以上 [84.8%] ・部活動加入率46%以上 [44%]</p> <p>②教員の図書委員会を立ち上げ、図書室の開館時間や図書活動の充実を図る。 ・「図書館だより」を各学期1回発行。</p> <p>(2)</p> <p>①「担任の先生以外（SSW・SC含む）にも相談することができる先生がいる」83%以上 [82.2%]</p> <p>②自立支援コース生徒の希望進路達成率100% [100%] ・各教科の授業におけるユニバーサルデザインの手法を検討し、共有化することにより、「東淀版授業のユニバーサルデザイン」を作成する。</p> <p>(3)</p> <p>・人権講演会を1回以上、各学年人権学習会を1回ずつ実施【講演会2回、学習会各学年1回】 ・生徒アンケート「人権について、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上 [89.6%]</p> <p>(4)</p> <p>①学校保健委員会を年1回開催し、調査報告等を実施する。 ②未受診者10%減 [10%減]</p> <p>③「担任の先生以外（SSW・SC含む）にも相談することができる先生がいる」83%以上 [82.2%] ・Webでの「健康相談窓口」の周知機会（月1回以上）を増やし活用を促す。 相談回数5回以上</p>	<p>(1)</p> <p>①「学校に行くのが楽しい」[81.1%](○) 「自分の学級が楽しい」[86.5%](○) 4月に「かかわりづくりワークショップ」を実施することができた。また、放課後カフェについても1カ月に2回実施することができた。(○) ・部活動加入率 [37.8%] (△)</p> <p>②教員の図書委員会を立ち上げ、図書室の開放をはじめ芸術鑑賞の実施など図書委員会がうまく活動し、図書・芸術活動の充実を図ることができた。 ・「図書館だより」を各学期1回発行できなかった。(△)</p> <p>(2)</p> <p>①「担任の先生以外（SSW・SC含む）にも相談することができる先生がいる」[87.1%](○) SCのアドバイスを活用しながら1年生の実態把握を行い、総合分析シートを作成し支援が必要と思われる生徒に対して保護者との面談を行った。今年度は個別の指導計画の作成を求められることがなかったため分析と報告のみ行った。(○)</p> <p>②自立支援コース生徒の希望進路達成率 [66.6%] (△) ・「東淀版授業のユニバーサルデザイン」を作成するための端緒として、教員対象の研修を実施することができた。(○)</p> <p>(3)</p> <p>・人権講演会を2回（生徒対象1回、教職員対象1回）、各学年人権学習会を1回ずつ実施することができた。(○) ・「人権について、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」[91.2%](○)</p> <p>(4)</p> <p>①学校保健委員会を開催し、薬剤師の講演を実現し、生徒が調査報告した。また、昼休みの放送で啓発活動を毎日実施した。(◎) ②未受診者減 [12.4%減] (◎)</p> <p>③「担任の先生以外（SSW・SC含む）にも相談することができる先生がいる」[87.1%] (◎) ・Webでの「健康相談窓口」の周知機会（月1回以上）(◎) Web相談や学習支援クラウドサービスの周知等、生徒が自身の健康等について安心して相談できる体制構築を促進した。Web以外の相談回数計5回以上 (○)</p>
--------------------------	--	---	--	---

府立東淀工業高等学校

<p>3 自ら未来を切り拓く生徒の育成</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣の確立・規範意識の向上</p> <p>(2) 高度な資格取得や各種競技大会に参加</p> <p>(3) SDGs への取り組み</p> <p>(4) 組織的・計画的なキャリア教育</p>	<p>(1)</p> <p>①・時間を守る、挨拶や言葉遣い、服装などの社会人基礎力の向上を徹底する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝、校門であいさつ運動を実施（生徒会も随時参加）し、生徒への声かけ、風紀指導も行う。 ・遅刻常習の生徒に対して対話を取り入れた遅刻指導に取り組む。 <p>②生徒会発信で、フォーム作成ツールで生徒の意見を集約するなどして「学校生活の目標」を設定し、学校全体として目線を合わせて、学校生活の充実を図る。2か月～3か月単位、もしくは学期単位での設定を行う。</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を通じて、将来に活かせる各種国家資格や検定へのチャレンジを支援し、生徒が達成感を得ることで自己肯定感に繋げていく。 ・各種競技大会に参加する大会回数を増やし、工業高校の魅力を発信する。 ・特色のある課題研究の実施など、生徒の「ものづくり」への興味・関心を引き出す。 <p>(3)</p> <p>生徒会が主体となり、NPO と連携して昨年度開始した SDGs の取り組みを継続して実施する。</p> <p>(4)</p> <p>①・外部教育機関・地域などと連携しながら、生徒の進路意識を高める進路説明会・出前授業等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートを活用し、生徒が学習プロセスを振り返り、見通しを持って、将来を見通したキャリア形成と、自己実現につなげる指導を行う。 <p>②就職活動において ICT の活用を更に進める。</p>	<p>(1)</p> <p>①生徒アンケート「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」85%以上 [83.8%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数 1000 件以下 [1255 件] <p>②生徒会が中心となり、毎月「学校生活の目標」を生徒自ら設定し、教室掲示やキャンペーンなど啓発活動を行う。</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得にチャレンジする生徒の人数を全学年で前年度より5%向上させる。[448名] ・ジュニアマイスター取得者の増加をめざす。 [計16名:特別表彰1名、ゴールド6名、シルバー3名、ブロンズ6名] <p>(3)</p> <p>学校全体で SDGs の1分野についての取組を実施する。</p> <p>(4)</p> <p>①・生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」85%以上 【83.1%】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望生徒の内定率100%（就職一次試験の内定率80%以上）を維持する。 【100%（89%）】 <p>②ICT を活用して、求人票閲覧など生徒が効率的に情報収集等を行える体制を構築する。</p>	<p>(1)</p> <p>①生徒アンケート「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」 [89.5%] (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数 1325 件 昨年度と比べて 100 件減少 (△) <p>②毎月教室掲示用の生徒会新聞の発行、校内に啓発ポスターの掲示を行った。また、学校をよりよいものにすべく、校長と生徒会で話し合った。今後もこのような機会を活用し、学校生活がより充実したものになるよう努力したい。(○)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得にチャレンジした生徒の延べ人数 [359名] (△) ・ジュニアマイスター取得者（前期）(○) [計16名:特別表彰1名、ゴールド6名、シルバー3名、ブロンズ6名] <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部が中心となり、工業科の援助を受けながら、「ペットボトルキャップの再利用した小物制作」を行った。文化祭でその取り組みを発表した。(○) <p>(4)</p> <p>①・生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」 [89.8%] (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望生徒の内定率100%（就職一次試験の内定率86%）(○) <p>②デジタル求人票を取り入れ、就職活動に役立った。(○)</p>
-----------------------------	--	--	--	--

府立東淀工業高等学校

<p>4 地域に信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 地域連携の深化</p> <p>(2) 中学校との連携の深化</p> <p>(3) 情報発信・学校PR</p> <p>(4) ICTによる校務の効率化</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所との交流：インターンシップ、生徒作品（玩具製作）の寄贈 ・地域NPOとの連携：生徒への情報教育（プログラミング技術の習得） ・地域区役所・地域企業との連携：工場見学・インターンシップ等の工業実習でのコラボ ・淀川区選挙管理委員会との連携：選挙権講演会実施 ・地域：生徒会が中心となる清掃活動 <p>(2) 学校の魅力発信のため、地域の小中学校向け出前授業、中学校個別の説明会等への参加。</p> <p>(3) 広報委員会が中心となり、SNS等を活用した広報を進める。ホームページはもとより、動画配信サービス（東淀チャンネル）を活用し、本校のものづくり教育や本校の特色を中学生・保護者などに積極的にアピールする。</p> <p>(4) 教職員間で、学習支援クラウドサービスを活用した連絡・データの共有化、会議・連絡会等のリモート・資料のペーパーレス化等を進めることにより、準備や会議時間の短縮、紙の削減を進める。削減した時間を生徒指導や学校の魅力化等に有効的に振り向ける。</p>	<p>(1)</p> <p>各交流・連携事業の実施状況で評価。年間10回以上</p> <p>(2) 出前授業・年間3回以上【3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校個別の学校説明会への参加3回以上【2回】 <p>(3) 月間2本以上の動画配信サービスへの動画掲載 [年間10本]</p> <p>(4) 教員アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ICTの活用により校務が効率化されている」90%以上を維持 [91.1%] ・校内紙使用料前年度比10%減 [40%] 	<p>(1)</p> <p>各交流・連携事業実施の結果、年間10回以上取り組むことができた。</p> <p>(◎)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業・年間5回 (◎) ・中学校個別の学校説明会への参加2回 (△) <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新数 168件(2024.4.1～) (◎) ・SNSを活用した動画配信 投稿数 年間60回 (◎) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ICTの活用により校務が効率化されている」[92%] (◎) ・校内紙使用料前年度比 [25%減] (○)
--------------------------------	---	--	---	--